



学校教育目標【自主】【寛容】【挑戦】
重点目標「目標の実現に向けて、自ら努力する生徒」

原町三中だより

南相馬市立原町第三中学校
学校だより 第8号
令和5年9月1日(金)発行
発行者 校長 和田節子

自分らしさを生かして

2学期が始まりました。8月22日の始業式で校長からは次のような話をしました。

「私が皆さんに願っていることは、「**自分らしく、自分の言葉で語る**」ということです。2学期は表現する機会がたくさんあります。英語弁論大会、各種壮行会、体験活動、生徒総会、そして燦稜祭…。皆さん一人一人の心の中にあることは、**あなたが生み出した、あなたにしか言えない、とても価値のあること**なんです。だから、堂々と自信を持って自分の考えを表現してください。そして他の人の考えにも耳を傾け、お互いに対話をしたり、議論したりしながら、よりよいものを生み出していきましょう。」

続いて、各学年の代表が夏の体験談を発表しました。1年生の板橋さんは、高齢者福祉施設でボランティアをし、入所者から戦時中の**シベリア抑留の話**を聞いたこと、また、他校の生徒とペアを組んで試合に出たことなどを発表しました。2年生の末永さんは、海外研修でオーストラリアに行き、オペラハウス等の見学や現地校の人達との交流を通して**異文化を学んだこと**の感動を伝えてくれました。最後は3年生の中野くん。「中学校生活の思い出となるよう、友達と協力しながら**各種行事を成功させたい**」と、2学期の抱負をノー原稿で語りました。

ひと夏の学びと感動、そして2学期への意欲があふれる素晴らしい発表でした。

早速、自分らしさを生かしました



第1回相双地区中学校英語弁論大会が8月29日、浮舟会館で行われました。今年度から相馬地区と双葉地区の中学校が合同で大会を開催することになり、今回はその1回目。相双地区の18校から44名が参加しました。本校からは、暗唱の部に3年の小嶋君、創作の部に2年の平君と堀内君が出場しました。審査の結果、平くんが見事第3位に入賞しました。3人とも力強く迫力あるスピーチを披露し、聴衆を魅了しました。

また、南相馬市社会福祉協議会が主催する「ふくしのスローガン」で、3年の末永くんが優秀賞に輝きました。表彰披露の場では、賞状を高らかに掲げ、とてもうれしそうでした。そして恒例のヒーローインタビュー。ここでも末永君らしさが全開でした。



やさしさは
みらいをひらく
こころぼし